

## K-9番 江藤あやめ 要約

(平成26年9月現在)

- 1 被害者  
江藤あやめ、山口県山口市在住、現在短大1年生（休学中）
- 2 ワクチンを接種する前の健康状態等  
健康、学校は皆勤、調理部、趣味のダンス
- 3 接種  
サーバリックス2回（2011年1月27日、2013年1月16日）
- 4 経過概要  
2010年 自治体より接種の案内通知、学校の保健だより等での案内  
2011年1月27日（高校1年生） 1回目サーバリックス接種  
接種当日発熱、食欲不振、倦怠感。3～4日後から股関節、体全体の痛み、頭痛。その後、生理不順、発疹、下痢等が出現し継続。  
学校の頻繁な欠席、部活の退部、ダンスの断念。  
2013年1月16日（高校3年生） 2回目サーバリックス接種  
接種翌日から体中の痛み、発熱、頭痛、股関節痛、体全体の痛み等の悪化。その後、左目の痛み、視力低下、視野狭窄、発疹、乳汁分泌等が出現し継続。  
短大に進学するもほとんど出席できないまま休学
- 5 現在の症状  
微熱、関節痛、全身痛、頭痛、視野狭窄、視力低下、発疹、筋力低下（車いす）、下痢、生理不順、乳汁分泌
- 6 受診医療機関・診療科  
14か所
- 7 救済制度の申請 申請未了、準備中。

## K-9番 江藤あやめ (山口県山口市)

(平成26年9月現在)

### 1 はじめに

私は、15歳と17歳のときに子宮頸がんワクチン（サーバリックス）の接種を受けており、1回目の接種時から現在まで副反応被害に苦しんでいます。これからそのことについてお話しします。

### 2 ワクチン接種前の生活や健康状態

私は、調理科の高校1年生のときにワクチン接種を受けましたが、それまでは健康そのもので、学校はほぼ皆勤でしたし、調理部の部活動や趣味のダンスレッスンなどに励んでいました。ダンスは小学生の頃から始め、クラブのショーなどに出ることもありました。

中学3年生になる前の春休みに、原因不明の熱が出て1週間ほど入院したことがありましたが、それ以外に大きな病気をしたことはありません。持病もなく、通院や服薬などはしていませんでした。

食物アレルギーではエビアレルギーがありますが、薬や動物などのアレルギーはありません。

### 3 1回目のワクチン接種の経緯

ワクチン接種の前、私の住んでいる県や市から、子宮頸がん予防ワクチンの接種案内の通知が送られてきました。学校が保護者宛に発行する保健便りなどでも、何度も接種が奨励されていました。

県や市、学校から案内が来ている公費負担のワクチン接種ということで、学校の友人なども、ごく一部の例外（宗教上の理由がある人など）を除いて、ほとんどが接種を受けていたと思います。

私も特に疑問を持つことなく、高校1年生（15歳）だった平成23年1月27日、近くの医院でワクチンを打ってもらいました。このとき、医師や看護師からワクチンの有効性に関する説明などは特になく、副作用については、発熱や吐き気など、ワクチン接種時の一般的な症状が出るかもしれないけれど大丈夫だと言われました。

ワクチンを打ったときには、普通の注射に比べて特に痛いということもなく、注射部位が腫れるようなこともありませんでした。

### 4 副反応の出現

ワクチン接種を終えて帰宅後、熱が出て夜には38℃まで上がりましたが、小さいころからどんなワクチンでも接種当日の夜にはそのくらいの発熱があったので、今回も同じ副作用だろうと思っていました。

ところが、翌日も微熱が引かず、食欲もなく体がきつかったので学校を休みました。

その後も微熱と食欲不振が続き、ワクチン接種の3～4日後くらいから、体のだるさ、股関節や体全体の強い痛み、頭痛などにも悩まされるようになりました。

以後、こうした症状が断続的に続いて月に3回以上学校を欠席（または早退）するようになり、登校する日も親に送迎してもらうことがありました。趣味のダンスも、レッスンやイベントに参加できなくなっていきました。調理部の活動も、大きな包丁を持ったり、

フライパンを持ったりするのも体の痛みなどのために辛く、立って調理をすることもきつくなりました。そのため、部活を休むことが多くなったので1年生が終わる3月には退部せざるを得ませんでした。

症状はだんだん強くなり、生理不順にもなりました。2年生になってからは月に5日くらい学校を休むようになり、1日中ベッドに横になっていることもありました。

平成23年7月の修学旅行には参加しましたが、やはり体調不良で辛い思いをしました。その翌月くらいから、鎮痛剤を何度も飲むようになりました。

9月には筋力低下のためかフラフラするようになり、体育祭には参加せず見学しました。また、下校途中に自転車で転倒し、骨盤を強打してしまったこともありました。

同年10月には肩の関節が痛みだし、体調不良から過呼吸を起こしたことがありました。この月は学校を7日間休んでいます。この頃から、部分的な関節痛が断続的に起きるのではなく、全身の関節という関節が慢性的に痛むようになりました。

11月には学校の三者面談で、私の欠席日数が問題にされました。しかし、体調は改善しないままで、翌12月中旬以降は、ほぼ毎日発熱がありました。年末には38℃近い発熱が続き、関節痛もより強くなりました。

平成24年1月中旬、左の顎から奥歯にかけて痛みが生じました。17日には痛みが顔面全体に広がったほか顔の左半分には発疹ができ、38℃近い発熱もあったため、近くの内科医院（ワクチン接種をした医院）を受診しました。しかし、症状が内科的ではないということで耳鼻科医院を紹介され、同日中に紹介先の医院で帯状疱疹と診断されました。

その耳鼻科医院からは山口日赤病院の皮膚科を紹介され、翌日受診したところ、痛みと発疹の程度がひどいということで県立総合医療センターの麻酔科を紹介され、即日受診しました。その日は神経ブロック注射をしてもらい、鎮痛薬が3種類処方されました。

翌日も医療センターに通院し、20日から30日までは入院して毎日神経ブロック注射を受けました。同月31日から2月5日までは自宅療養しており、その間ずっと微熱がありました。

2月6日から登校しましたが、体調不良は続き、同月中旬には帯状疱疹後の神経痛で左顔面が痛くてたまらなくなったほか、依然として発熱や体の痛みがありました。下痢もするようになり、食欲がなくほとんど食べられなかったため胃腸科を受診すると、十二指腸潰瘍と診断されました。結局、1月と2月は合計25日も学校を休み、登校した日もほとんど自力での通学は不可能で、親に送迎してもらいました。3月中旬以降、登校する日はすべて親に送迎してもらっていました。

3年生に進級してからも発熱や頭痛、関節痛は相変わらずで、だんだん鎮痛剤が手放せなくなりました。調理実習を休みたくないのでも学校には極力行くようにしましたが、やはり月に3日は欠席する状態で、ときどき早退もしました。体調不良で実習中も辛く、意識が遠のくことさえありました。

平成24年6月14日、右後頭部がビリビリする感覚があり、母に見てもらったところ、頭皮から首にかけて赤い発疹や水泡ができているとのことでした。山口日赤病院で鎮痛剤等を処方してもらいましたが、その翌日は左顔面にも発疹が出て（痛みもありました）、その後、発熱が数日間続きました。同月下旬、山口日赤病院に紹介してもらった山口大学付属病院で血液検査や自己免疫スクリーニング検査を受け、膠原病や自己免疫疾患の疑いがあると言われました。6月は、学校を8日間欠席しました。

7月2日、検査結果に大きな異常所見はない（抗核抗体のみ異常値）ということで、そ

の大学病院の精神科を紹介されました。

その翌日、紹介された精神科を受診したところ、うつ病と診断され、抗うつ薬や睡眠導入剤、胃薬を処方されました。以後も発熱、頭痛、倦怠感、関節・体の痛みが続いたほか、何も食べられないことが多く、不眠にもなりました。8月からは精神科の個人クリニックに通院しましたが、私は自分の体調不良が精神的な病気のせいだとは思えず、うつ病という診断にとっても違和感がありました。

7月から9月中旬までほとんど学校に行けない状態で、期末テストも受けられず、体育祭も文化祭も欠席でした。とにかく体調が悪いのと、このまま学校に行けないのではないかと不安で、よく泣いていました。

9月には、担任の先生から出席日数が足りず卒業は無理ではないかと言われて大泣きしました。また、私は警察官になりたかったのですが、今の状態ではとても採用試験を受けられないと思い、進路を地元の短大進学に切り替えることにしました。10月にも、担任の先生から卒業できないと言われて帰宅後号泣しましたが、同月中旬、なんとか芸術短大の面接試験とデッサン試験を受けました。まもなく顔面神経痛になり、相変わらず発熱や体の強い痛みも続きましたが、これ以上学校を休めないと思ったので、無理をしてでもできるだけ登校するようにしました。しかし、耐えられず早退することもありました。

11月、短大の合格通知が届きました。同月も体調不良のため7日間学校を欠席しており、通院していた精神科のクリニックで抗うつ剤を増量してもらいました。

12月の初めには下痢が続き、体力がどんどんなくなる感じでした。発熱、体の痛み、倦怠感なども続いていましたが、とにかく高校を卒業したかったので、先生にお願いして年末の数日間補講をしてもらいました。大晦日には高熱が出ました。

## 5 2回目のワクチン接種の経緯

1回目にワクチンを打った時に、3回打たないと効果が出ないと言われていました。体調がずっと悪かったので2回目のワクチン接種を受けることができずにいたのですが、1回目のワクチン接種から約2年も経ったので、受けたほうがいいのかどうか、母が、市の保健センターに問い合わせてくれました。そうしたところ、保健センターの方から、「無償でワクチンを打てる期間は過ぎていて、1万6000円かかるけど、打ってください。」と言われたとのことでした。

当時は、自分に起こっている様々な症状が、ワクチンのせいだとは思っていませんでした。そのため、「打ってください。」と言われて、何も疑問を持ちませんでした。

平成25年1月、17歳のときに、以前と同じ病院で2回目のワクチン接種を受けました。

このときも、医師や看護師からワクチンの有効性に関する説明などは特になく、副作用についての説明も1回目と同じでした。

ワクチンを打ったときには、普通の注射に比べて特に痛いということもなく、注射部位が腫れるようなこともありませんでした。

## 6 2回目ワクチン接種後の状況

ワクチン接種の翌日から体中の痛みがひどくなり、夜眠れませんでした。

1月24日には調理師の国家試験だったので、きつい体を押して、何とか受験をしました。翌日から学校が休みに入りましたが、体の痛み、発熱などで起き上がれませんでした。

1月31日には、調理師試験合格の発表があり無事合格していました。

2月4日には、自動車学校の入校手続きをしましたが、その二日後には、体がきつく、結局教習を続けるのは無理だと判断しました。

相変わらず、発熱、体の痛みは続き、頭痛も以前よりひどくなりました。そして、2月21日には左目が痛くなり、眼科を受診しました。室内の太陽光でもまぶしくて目が開けられませんでした。高校入学時には2.0あった視力も、0.5にまで落ちていました。また、視野の検査をしたところ、見える範囲が狭くなっていると言われました。

3月1日には、何とか高校を卒業することができましたが、卒業後の3月中は、体がきついで、ほとんど家で寝て過ごしました。

4月4日は、短大の入学式に出席しましたが、体がきつくて、帰宅後すぐにベッドに横になりました。結局、短大に入学したものの、4月は6日も学校を休みました。

4月9日には精神科のクリニックを受診しました。体の痛みやきつさを訴えたのですが、うつ病だと言われ、抗うつ薬を増量されました。

その後も、頭痛がひどく、鎮痛剤が手放せない状態になり、食欲も全くなくなり、食事がほとんど取れない日もありました。

4月18日には、股関節が痛くなり、痛みのために眠れない日もありました。5月14日には、全身の関節が痛くなり、症状が悪化したため、翌17日に済生会病院内分科を受診しました。しかし、内科的所見はないとの診断でした。

## 7 学校へ行けなくなったこと

しかし、その後も症状は悪化する一方で、学校も欠席や早退が増えました。6月の後半からは学校をほとんど休むようになりました。

7月26日には、首、胸、肩に赤い発疹が出て、37.1度の発熱があったので、内科を受診したところ、膠原病の疑いがあると言われ、山口日赤病院の内科を紹介されました。7月29日に山口日赤病院を受診し、血液検査をしました。その日の深夜1時頃に肩関節が砕けそうに痛くなり、市販の鎮痛薬を服用したり、湿布を貼ったりしましたが、痛みがひかず、朝まで眠れませんでした。翌日も、両肩が痛くてたまりませんでした。そして、8月1日には、両肩、両股関節、両肘まで痛みが広がり、37.4度まで熱が上がりました。その後も症状は続き、痛みのために全く食事もとれない状態になりました。

8月5日に血液検査の結果が出ましたが、特に異常はありませんでした。その日のうちに、膠原病外来の医師の診察を受けたところ、SLE（全身性エリテマトーデス）とシェーグレン症候群の疑いと言われ、口腔内を切開し、唾液腺を採取され、4針縫いました。

しかし、8月13日に結果を聞いたところ、膠原病も、SLEもシェーグレン症候群も否定され、「あるとすれば繊維筋痛症」と言われ、精神科のクリニックを紹介されました。

8月16日に精神科のクリニックを受診しましたが、「繊維筋痛症はストレスが原因」と言われ、抗うつ薬を追加されました。そして、繊維筋痛症の認定医である整形外科を紹介されました。

翌日、整形外科を受診して検査を受けた結果、繊維筋痛症と診断されました。

その後も症状が回復する見込みもなく、6月下旬以降、ほとんど学校には行けていなかったため、9月には正式に学校に休学届を出しました。

## 8 ワクチンとの関連性を知ったこと

10月には、山口大学付属病院神経内科が厚生労働省の指定医療機関に指定されたと聞いたため、10月21日に同科を受診しました。これまでの症状の経過等を説明したところ、「子宮頸がん予防接種後アジュバント関節炎」と診断されました。このときはじめて、ワクチン接種と自分の様々な症状との関連性があることを知りました。まさか、ワクチン接種が原因だとは思ってもいなかったので驚くとともに、ショックを受けました。

その後、平成26年2月7日から3月5日までと、同年6月11日から7月7日まで、山口大学付属病院に各種検査のために入院をしました。

検査の結果も「子宮頸がん予防接種後アジュバント関節炎」という診断は変わっていません。

そして、9月11日からは、血漿免疫吸着療法を受けるために入院しており、現在も入院中です。なお、入院に際して、ギランバレー症候群との診断が付いていますが、これは、血漿免疫吸着療法を受けるのに保険適用されるためだという説明を受けています。

## 9 現在の状況

上記のとおり、現在の山口大学付属病院に入院して治療を受けています。少しずつ症状はよくなってきているようには感じますが、未だに、微熱、関節痛、全身痛、頭痛、視野狭窄、視力低下、発疹の症状は続いています。免疫吸着療法が効くかどうかは今のところわからないと言われており、いつまで入院して、治療を続けなければいけないのかはわからない状態です。

また、筋力が低下しているため、10メートルくらいまでなら杖を使って歩けますが、それ以上は歩けないので、基本的には車いすを使って移動をしています。筋力をつけるために、1日1回リハビリ（マッサージ、自転車こぎ、筋トレ）や作業療法（細かい手作業）等を行っています。

また、下痢や生理不順もあり、また、妊娠もしていないのに乳汁分泌が時々あります。

薬は、リリカというしびれをとる薬を1日4回、メリスロン錠というめまいを抑える薬を1日3回、トラムセットという痛み止めの薬を1日4回、ムコスタという吐き気止めの薬を1日3回飲んでいきます。

以前は、サインバルタという抗うつ薬も飲んでいましたが、飲み始めてから、血圧がコントロールできなくなり、脈拍が常に120を超えている状態になり、今年の1月14日には自宅で気を失って倒れて救急車で運ばれたため、やめました。ただし、医師は、倒れたのは、サインバルタのせいか、ワクチンの副作用のせいかわからないと言っていました。

## 10 最後に

私は、ワクチン接種の副反応のせいで、3年以上もの間様々な症状に苦しんでいます。いろいろな医療機関を紹介され受診しましたが、未だに症状はなくなりません。医療機関では、「お母さんがいちいち子どもの熱などの原因を探ろうとするから悪いのだ」と言われたり、原因がわからないからうつ病だと決めつけられたりして心無い発言を受けたこともありました。また、体が痛いと言ったところ、医師から「本当に痛むのか」と言われ、思いつき、肩や肘や関節を押されたりして、痛みのあまり泣いてしまったこともありました。

また、ワクチンの副反応のせいで、趣味のダンスや部活動も辞めざるを得なくなり、学

校にもまともに行けず、今後も復学の見通しが立っていません。

私は、両親も祖父や親族も警察官ということもあり、子どもの頃から警察官になるのが夢でした。しかし、このような体ではとても警察官になることはできず、その夢も諦めざるを得ません。

母は、現在は仕事をしていないため、通院には必ず付き添ってくれますし、入院中は片道1時間くらいかけて、毎日付添いに来てくれています。父も休みの日には付添いに来てくれています。しかし、両親に心配をかけ、時間も取らせていることは申し訳なく思います。

また、母からは、治療費、薬代、交通費をあわせると月に20万円は超えていると聞いています。そんな両親の経済的負担を考えると申し訳なく思います。

ワクチン接種による被害者は私かもしれませんが、実際には、私だけではなく、私に関わる家族にも被害が及んでいるということを知って欲しいです。

本当は、体を元に戻して欲しいし、人生を元に戻して欲しいのですが、今のところそれできません。そうであれば、せめて、国が公費で費用を負担をしてワクチン接種を勧めた以上、その結果に対する責任をとって、きちんとした補償をしてほしいと思います。